

百済寺跡出土飾金具など金属製品について奈良国立博物館で頂いた意見

飾金具類

- ・蓮華文の金具は奈良時代と考えられる。ただし細工は正倉院のもの比べると細密でない。
- ・蝶の文様の金具など、平安時代後期のものの可能性があるものもある。ただしデザインとしては当時の主流の文様ではない。
- ・全体的に飾金具類についての所感としては、それだけで重要文化財になる程のものでない。

革製品

- ・類例がない。
- ・縁の残っている部分がわずかにカーブを描いていること、鋳釘が付属していることなどから考えると箱とは考えにくい。華鬘のようなものが考えられるが編み込まれている理由がわからない。
- ・押出仏とセットとみた場合、押出仏を収めた火頭型の厨子のようなものは考えられるが、革製の理由がわからない。仏画などが張り付けられた可能性も考えられる。

押出仏

- ・天部は火頭型と考えられ、中央の仏の袈裟は通肩に装着しており、右手は逆手の可能性もある。
- ・裳懸座の裳がU字形を呈しているなど百済の仏教美術の様式を色濃く残している。
- ・左の脇侍の下には獅子が座っており、おそらく右側にも対になる獅子か狛犬がいたと考えられる。
- ・古い様式を残しており、天武朝までさかのぼる可能性も考えられる。百済から持ち込まれた伝来品かもしれない。
- ・表面だったら重要文化財にもなったかも。是非とも3D測量して表面を復元して欲しい。